

## はじめに

農林業センサスは、我が国の農林業の生産構造、就業構造及び農山村等の農林業をとりまく実態を明らかにするとともに、我が国の農林行政の推進に必要な基礎資料を整備することを目的に、全国の全ての農林業経営体等を調査対象として5年ごとに実施している、農林業経営体調査及び農山村地域調査から成る、基幹統計調査です。

我が国においては、F A O（国際連合食糧農業機関）の前身である万国農事協会が提唱する「1930年世界農業センサス」に沿って実施した「昭和4年農業調査」がはじまりとされており、戦後の臨時調査などを経て、再びF A Oが提唱した「1950年世界農業センサス要綱」に準拠して昭和25年2月に実施し、その後は、10年ごとに策定されるF A Oの要綱に基づいて「世界農業センサス」を、その中間年次に我が国独自の「農業センサス」を実施してまいりました。

この後、調査項目や定義などについて見直しを加えながら実施し、令和2年2月1日現在で実施した2020年農林業センサスは、戦後15回目を迎えました。

一方、林業センサスは昭和35年から10年ごとに実施してきましたが、2005年農林業センサスから、農業と林業の経営を一体的に把握する調査形態となったため、以降5年ごとに農林業センサスとして実施しており、今回の2020年農林業センサスは、林業センサスとしては9回目となります。

この報告書は、2020年農林業センサスのうち、農林業経営体調査の神奈川県分の結果をまとめたものです。本書が、本県の農林業が直面している課題解決のための基礎資料として御活用いただければ幸いです。

この調査に御協力をいただきました農林業関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、今後とも一層の御協力をいただきますようお願いいたします。

令和4年3月

神奈川県統計センター  
所長 中田 均